



伊那市立東部中学校

Toubu Junior Highschool

たかとう

高東メモリーズ

~タカトオコヒガンザクラと私たち~



仙台市立高砂中学校

絆宣言

二〇一一年三月十一日 多くの尊い命を奪った東日本大震災。友達、家族を失い、今でも悲しむ気持ちを持ち続けている人がいます。あの震災から二年半。人々は前を向いています。顔を上げ、笑顔で前進しようとしています。

私たち伊那市立東部中学校生徒は、東北の人たちの支えになるため、震災の悲劇を忘れず、このさくらプロジェクトを未来へとつなげていきます。

私たち仙台市立高砂中生徒は、震災後支えてくれたたくさんの人たちへの感謝の気持ちを忘れず、震災から学んだことを後世に伝えるために、このさくらプロジェクトを未来へとつなげていきます。

東部中から私たち高砂中に贈られた二本のタカトオコヒガンザクラが復興への「未来」を照らす「希望」となるように祈り続け東部中に植樹される二本の桜が、私たちの心の「輝(ひかり)」「虹(かけはし)」となることを信じ

私たち東部中学校と高砂中学校は絆を深めていくことを誓います。

平成二十五年九月二十八日

仙台市立高砂中学校 生徒会長 喜早太一

伊那市立東部中学校 生徒会長 若林 洸

次世代へ“つなぐ” さくらの絆

2011年3月11日に起きた東日本大震災。10年が経過する今でもさくらプロジェクトは続いています。10年前の私たちは、保育園や幼稚園に通っていました。この後入学してくる世代は、当時生まれて間もないか、生まれていない世代となります。当日の記憶が薄れていたり、知らなかったりするでしょう。

震災を風化させず、さくらプロジェクトの活動を整理して、次の世代につなげていくことが重要だと考えていた私たちを更に「コロナ」が襲いました。休校期間を経て、私たちが体験したのは、「部活動最後の大会」や「修学旅行」の中止や代替。今まで当たり前だと感じていたことが制限されました。その中で、両校の生徒会はオンラインによる情報交換を行い、『遠く離れた地でも同じ状況下を乗り越えようとしている仲間がいること』、『今できることを精一杯やる大切さ』を共有しました。その想いは、さくらプロジェクト発足当時と同じでした。

そのような想いを今後も引き継いでもらえるよう、このパンフレットを制作しました。



伊那市立東部中学校

第59期生徒会長 五味隼太郎 さん

今年度のすず竹祭。昨年に引き続き、防災をテーマに「クロスロード」を実施し、いざ災害に見舞われたときへ備えました。

東日本大震災から10年。

東部中学校と高砂中学校の交流の源には震災の存在がありました。「震災からの復興支援を主とした関わり」から「震災やそれを軸とした両校の交流を後世へ伝える関わり」へと、時の流れと共に形を変えてきています。

その象徴として、「4本の桜」「高東桜歌」「シンボルマーク」などがあります。これらも「復興に向けた希望」から「両校の絆の象徴」と姿を変えてきました。

では、両校の生徒が今後できることは何でしょうか。それは『伝える』ことだと思います。

交流の歴史、さくらの意味、内容は様々です。また、高東桜歌、当時の映像、防災ノート、そしてこの『高東メモリーズ』。伝える方法も様々です。

きっとこれからも姿や形、方法を変えて、さくらの交流は続いていきます。ですが、変わらないものもあります。それは、根底にある震災の存在、毎年花を咲かせる桜、交流の本質です。さくらの花が咲かないことも、3月11日が来ないこともありませぬ。それらがある限り、私たちのさくらの交流はずっと続いていくでしょう。そして、これまでの交流の中で両校の生徒が残し、伝えようとした『想い』を少しでも感じ、伝えていってほしいと思います。

伊那市立東部中学校 第59期生徒会長

五味 隼太郎

仙台市立高砂中学校

令和2年度生徒会長 小澤 莉央 さん

震災から月日が経ち、瓦礫に覆われていた高砂の景色は復興が進み、大きく変わりました。新しい建物が建ち、川には堤防が築かれ、街は活気に満ちています。

高砂中学校では毎年11月になると、さくらソング「高東桜歌」練習が行われます。

10月で代替わりが行われる本校では、2年生が生徒会活動の中心となり、2年生が1年生へ、桜歌とともに両校の交流の歴史について一つ一つ教えていきます。

このような風景を見ていると、同じように後世へと伝えていってほしいという願いとともに、しっかり受け継いでいけるかという心配の声も周りから聞こえてきます。

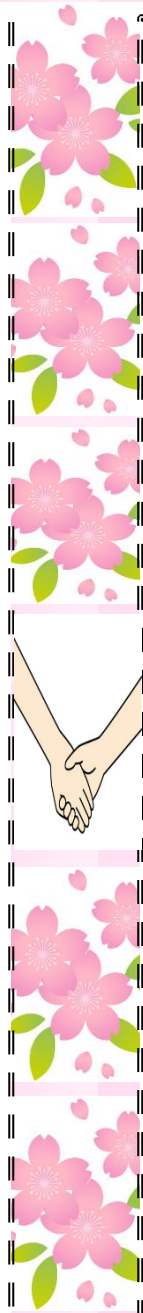
時間が経てば、震災当時には生まれていなかった子どもたちが入学してきます。確かに、経験していない状況を他人に伝えるということは難しいでしょう。

しかし、私たち高砂中学校の生徒は、桜歌を学ぶことで歴史を学ぶため、校庭の南門にあるタカトオコヒガンザクラを見る度に、あの日のこと、当時の高中生のこと、東部中学校のみなさんとの絆を振り返ります。これからも桜歌とともに、高中生として大切にすべきことは受け継がれていくと確信しています。

両校の絆の証である4本の桜の木。これからも美しい花を咲かせ、私たちに笑顔を届けてくれることでしょう。

仙台市立高砂中学校令和2年度前期生徒会長

小澤 莉央



3. 1 1 東日本大震災当時の宮城県仙台市立高砂中学校

※高砂中学校制作「防災ノート」より抜粋・再編集

(1) 震災直後の高砂中学校

- ・2011年3月11日（金）午後2時46分。1，2年生が翌日の卒業式の準備をしていた。
- ・「ゴゴゴ」と地鳴りがしたかと思うと、激しい揺れに襲われ、生徒は恐怖からあちこちで叫び声を上げた。
- ・揺れは約5分続いた。一旦収まったかと思えば、何度も繰り返し大きく揺れた。
- ・体育館のガラスが割れ、物が散乱した。電気やガスはすべて止まり、地震に関する情報を得られなかった。
- ・余震が収まってきた頃、地域の方々が避難してきた。学校にいた高中生は、避難者を誘導したり、お年寄りを介抱したり、寒さに震える方に自分の上着を差し出したりと、避難してきた地域の方を気遣っていた。
- ・地震後20分経った頃、ラジオのニュースで「仙台港に10mを超える大津波が来る」との情報が入り、校庭に避難していた人は屋上へ避難した。大津波警報とともに多くの方が学校に避難してきた。
- ・40分経った頃、七北田川の水が津波で逆流してきた。真っ黒い水がさかのぼり、大きな不安に襲われた。
- ・中野地区に大津波が2度3度と襲いかかり、中野小学校や付近の住宅は黒い津波に飲まれ破壊された。
- ・60分経った頃、高砂中学校へ仙台港の方から1m30cmの津波が押し寄せてきた。校庭は完全に浸水、校舎1階が水に浸かった。膝まで水に浸かりながら必死に逃げてくる人もいた。学校には1500名を超える方々が避難してきた。そのさなか突然降ってきた冷たい雪に不安がさらに広がった。



犬走りの変形・破損



体育館の筋交いが断裂



天井から照明が落下

(2) 避難所となった高砂中学校の様子

校舎の1階は津波の浸水のため使用できなかった。日が暮れても電気はつかず、使える水は貯水タンクに残っている分だけ。備蓄庫には1500名分の食事を十分にまかなえる食料はなく、夜はクラッカー3枚やアルファ米2口だった。気温も低く、体を寄せ合ったりカーテンやゴミ袋をかぶったりして寒さを凌いだ。

避難してきた小さな子ども達は寒さと暗さから泣き出したが、高中生は、自分達も不安で泣きたい気持ちなのに、おもしろい話や歌で励ました。



子どもが集まった避難所



自家発電の夜間照明



津波で校庭は水没

朝になり明るくなると周囲の景色が見えて被害の大きさがわかった。学校周辺は津波の水が冠水した状態で孤立した。2日目以降はトイレの水が流せなくなり汚くなった。高中生はプールから水を運び流した。津波の水が引くと、支援物資として食料が届くようになった。本格的に支援が始まり、仮設トイレや給水所が設置された。高中生は大人と一緒に物資を運ぶ手伝いをした。



仙台港の石油タンクは数日間燃え続けた



七北田川に流された家屋

(3) 高砂中学校の学校再開

2011年3月24日は震災以降久しぶりの登校日。校庭は津波のヘドロの異臭と動かなくなった車が放置されていた。高中生は一輪車を使いヘドロを何度も運び出した。

2011年4月16日には入学式が行われた。体育館は震災の影響で使用できず、鶴巻小学校の体育館で行われた。多くの生徒が被災し、家も新しい制服も学用品も津波に流されていた。損壊した家の泥の中から入学通知書を探し出し当日持参する新入生もいた。



生徒が校庭のヘドロを運搬



物資が運び込まれた体育館



1階職員室に津波が浸水

(4) 震災当時（平成23年）の高砂中学生の作文（抜粋）

- ・私を助けてくれたのは、全国、全世界から支援してくださった人達だ。数え切れないほどの支援をしてくださったことを今でも覚えている。この感謝の気持ちをどう伝えるか。それは、やはり復興へ向けて歩いていくしかないと思う。町や地域が元に戻っても、心が立ち直らなければ意味がない。
- ・避難所には、近所の方々、小さな子からお年寄りの方、身体の不自由な方などいろんな方がやってきます。そんな時は先陣を切って手を差し伸べましょう。きっと皆さんのことを頼もしく思って、いろんな事を皆さんに聞いたり頼み事をしたりすることでしょう。高中魂はこんな時こそ発揮されるのだと思います。
- ・夜になり、余震におびえながらろうそく1本をみんなで囲みました。冷えた身体を支給された毛布と保存米で暖めながら、眠れないまま3月12日を迎えました。お父さんが迎えに来てくれて自分の家に帰りました。家はぼろぼろ、がれきは家の中まで入ってきていました。僕はこのとき、まだ現実を素直に受け入れられませんでした。ただ、家族全員が再会できたことだけは、すごくうれしかったです。

(5) 防災ノートを要約した高砂中学生（令和3年）の感想（抜粋）

- ・不安に襲われる中で、電気もつかず、満足に飲食もできず、雪が降る寒い中で聞こえてくる爆発音とヘリコプターの音。想像するだけで怖くなった。災害に見舞われた地域の中学生だということの重みを感じた。
- ・自宅が流されて自分自身のことで精一杯なはずなのに、地域の方々を介抱した中学生がいたから、現在の復興につながっていると思った。この高砂中学校には特別な思いがあることを忘れないようにしたい。
- ・改めて震災のことは風化させず語り継がなければならないと思った。震災当時に私達の地域を支援し応援してくれた方々、そして、その事実を伝えてくれた方々に感謝したいと思う。当時の中学生の作文には、未来を生きる私達に向けられたメッセージが込められているので心に刻もうと思った。

～東部中学校×高砂中学校 さくらプロジェクトの歩み～

2011年3月11日午後2時46分 三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で、深さ約24kmを震源とする地震が発生。マグニチュードは9.0。これは日本国内観測史上最大規模、1900年以降世界でも4番目の規模の地震であった。

8月 東部中学校第50期生徒会は震災以来、校内募金活動を実施し、東北復興支援の活動を行ってきた。その中で、高砂中学校に募金を送り、開校以来親しまれてきた南門のさくらの木（ソメイヨシノ）が津波による塩害で枯れてしまった事実を知る。

2012年3月 東部中学校第51期生徒会で「タカトオコヒガンザクラを贈ろう」というさくらプロジェクトが生まれた。

4月 東部中学校臨時生徒総会にてプロジェクトが否決される。「高砂中にとってはありがた迷惑なのではないのか?」「助けになりたいという気持ちは分かるが、高砂中の生徒の声が全く聞こえない。見通しがもてない状態で承認するべきではない」という思いや意見が出された。その後、東部中学校から高砂中学校へ「さくらプロジェクトの議案書」と「手紙」を送付。併せて、東部中学校職員が高砂中を訪問。直接、東部中学校生徒会の意志を伝える。

9月 高砂中学校から東部中学校へ「手紙の返事」を送付。東部中学校からのメッセージを受け、高砂中学校生徒会で議論。「塩害が残るこの土壌で育てていけるのか」という意見もあったが、「両校で一緒に考え進めていきたい」と返答。

東部中学校で臨時生徒総会を開く。

「第51期生徒会の熱い思いに応えたい」

「先輩達が立ち上げたプロジェクトを2年生として引き継ぎたい」と賛成意見が多く出され、全校の活動として承認された。



10月 高砂中学校山田和行校長先生が「絆を力に 1歩ずつ」という演題で、東部中学校にて講演。一方、『タカトオコヒガンザクラ』の桜守さんが土壌の調査で高砂中学校を訪問。さくらについて講話を行う。

11月15日 東部中学校から高砂中学校へ、生徒、職員、桜守をはじめとする代表16名が訪ね、植樹式が行われる。2本のタカトオコヒガンザクラが植樹された。

(タカトオコヒガンザクラ植樹記念日)

2013年3月 高砂中学校では、全校生徒にアンケートを実施。2本のさくらが『希望のあかりを灯し、未来へのみちを示す』という思いを込め「希望(あかり)」と「未来(みち)」と決定された。記念石碑も建てられた。

4月 植樹したさくらが一輪だけ開花。

7月 スカイプによる交流が開始。

9月 東部中学校「すず竹祭」へ高砂中学校を招待。高砂中学校代表生徒が来校し、高砂中学校から東部中学校へ2本の仙台七夕かざりが贈られる。東部中学校からは合唱部が「高砂中校歌」を披露。すず竹祭のフィナーレとして「絆宣言」が両校生徒会長によって宣言される。

2012 高砂中学校に桜の植樹





卒業した第51期生徒会役員も出席



10月 高砂中学校文化祭に東部中学校美術科作品を展示。

11月 「故郷復興プロジェクト」にてスカイプによる交流。

2014年1月 新生徒会によるスカイプ交流集会。3月にも実施。

4月 植樹したさくらが300輪開花。高砂中学校から東部中学校へさくらの絵としおりが贈呈。

9月 東部中学校に2本のタカトウコヒガンザクラ『輝(ひかり)』『虹(かけはし)』を植樹。スカイプにて実況。



東部中に送られた七夕飾りや大漁旗

2014 東部中学校に桜の植樹



植樹直前の虹(かけはし)

2015年3月 「故郷復興プロジェクト」にてスカイプによる交流。

8月 東部中学校代表生徒が高砂中学校を訪問。「うみの杜水族館」に招待され、震災後の地域復興の様子を見させていただき、両校生徒による意見交換会を実施。「今後交流を深めるためには何が必要か」というテーマに対し、「部活動を通して交流をしたい」という意見が出た。



10月 「リーダー研修会」として、高砂中学校の代表生徒が東部中学校を訪問。訪問中は新人戦の真最中であったため、高砂中学校生徒が東部中の野球部を応援してくれた。歓迎レセプションの中で、「絆宣言」を再び宣言した。また、高砂中学校から東部中学校へ『大漁旗』が贈呈。放課後の交流活動として、東部中学校女子バスケットボール部と交流試合を行った。



絆宣言 2015



高中魂披露



2016年3月 「故郷復興プロジェクト」にてスカイプによる交流。

2016年前半 「さくらソングを協力してつくろう」という話が両校生徒会の意見交換の中で出された。歌い継ぐことで、交流の歴史や思いを語り継いでいきたいという意見が出される。

8月 東部中学校代表生徒が高砂中学校訪問。両校代表生徒の話し合いの中で歌詞の原案が完成。



『さくらプロジェクトテーマソング』

高東桜歌 〈この桜に想いを込めて〉

一、 私たちはなくした 高砂のさくらを

私たちは迷う 何ができるのだろう
希望の“みち”を求め 未来への“あかり”を探す
とにかく 進もう 手を取り合って

あの頃のさくらを忘れずに
何にも代えることのできない大切な思い出だから

とにかく 前へ進んでいこう
私たちを勇気づけてくれた
あのさくらのために

二、 私たちは出会う 涙色のさくらに

私たちは迷う 何ができるのだろう

“ひかり”が願いを照らし
心を“かけはし”がつなぐ
歩こう歩こう 思い届くまで
満開のさくらを咲かせよう
このさくらの花びらに

さびしさをうめてほしいから
満開の笑顔を見せてよう

この笑顔が私たちの背中を押してくれるから

三、 私たちの絆は 明日への一歩

私たちの桜は 明るい未来

“ひかり かけはし” “みち あかり”
“輝 虹” “未来 希望”

この絆は永遠に続く
歩こう歩こう 共に笑顔で
進もう進もう 桜と共に

さくらプロジェクト テーマソング(仮称)

♩ = 90

わ た し た ち は 迷 っ た 何 が 可 能 な の だ ろ う
た し た ち は 進 ぶ 手 を 取 り 合 っ て
あ の 頃 の さ く ら を 忘 れ ず に
何 に も 代 え る こ と の で き な い 大 切 な 思 い 出 だ か ら
た っ と 進 ん で い っ ぱ い 前 へ 進 ん で い っ ぱ い
私 達 を 勇 気 づ け て く れ た
あ の さ く ら の た め に



10月 東部中学校文化祭「すず竹祭」に高砂中学校がスカイプをつかって参加。歌詞に曲が付けられ「さくらソング(仮)」が完成。東部中学校合唱部が初披露。

11月 高砂中学校全校生徒で「さくらソング(仮)」を合唱。

2017年1月 「さくらソング」の正式名称が生徒公募により『高東桜歌～この桜に想いを込めて～』に決定。

3月 「故郷復興プロジェクト」にてスカイプによる交流。

4月 東部中学校より高砂中学校へ「さくらだるま」を寄贈。

9月 東部中学校より代表職員4名が高砂中学校を訪問。

10月 高砂中学校より生徒及び職員40名が東部中学校を訪問。両校の生徒が初めて同じ場所で「高東桜歌」を斉唱する。防災ノートが紹介される。部活動交流が行われる。



12月 さくらがつなげた東部中学校と高砂中学校の強い絆を象徴するイラストとして、シンボルマークデザインが両校生徒の公募により作成。

2018年2月 体育館掲示用のシンボルマーク完成。

4月 高砂中学校2学年約140名が野外活動にて東部中学校を訪問。両校で「未来を考える会」で討論。一緒に「給食」と「無言清掃」を行う。

2019年11月 高砂中学校から東部中学校へ植樹記念日に合わせ『高東桜歌』とメッセージDVDが贈られる。

2020年2月 東部中学校から高砂中学校へ『高東桜歌』とメッセージDVDを贈る。



7月 両校生徒会がLINEビデオ通話にて交流。コロナ禍の学校生活について、情報交換を行う。

8月 両校生徒会がZOOMにて交流。震災を風化させないために、さくらの交流をまとめたパンフレットの作成を東部中学校より提案。

9月 東部中学校から高砂中学校へ「コロナ禍における心境や励ましの言葉の寄せ書き」を送付。

10月 ZOOMにて交流。

11月 高砂中学校から東部中学校へ植樹記念日に合わせ『高東桜歌』とメッセージDVDが贈られる。

12月 ZOOMにて交流。

2021年3月11日 東日本大震災発生から10年。



高砂中よりパンフレットのタイトルの提案がされる



伊那東部中学校記録
50周年記念誌 生徒会誌
高砂中学校防災ノート
ホームページ等参照
R3 3月発行